

令和6年度第1回秋田県立美術館運営協議会（議事録要旨）

- 1 日 時 令和6年6月4日（火） 14:00～15:30
- 2 場 所 秋田県立美術館 1階 レクチャールーム
- 3 出席者 秋田県立美術館運営協議会委員 7名
事務局 3名（生涯学習課1名、公益財団法人平野政吉美術財団2名）

4 次 第

- (1) 開会
- (2) 公益財団法人平野政吉美術財団業務執行理事（秋田県立美術館長）あいさつ
- (3) 生涯学習課長あいさつ
- (4) 出席者紹介
- (5) 報告
 - ① 令和5年度 秋田県立美術館事業の報告について
 - ② 令和6年度 秋田県立美術館事業の概況について
 - ③ Museum特別展充実事業について
- (6) 協議（意見交換）
 - ① 展示事業について
 - ② 教育普及事業について
 - ③ 広報について
 - ④ 運営全般について
- (7) その他
- (8) 閉会

5 協議概要（○：協議会委員 ■：事務局）

- ① 展示事業について
 - (ア) 特別展について
 - 令和5年度は前後期の特別展があったようだが、リピーターの数は把握できているか。
 - リピーターの正確な数は不明である。前回入場時の半券提示によるリピーター割引の料金設定を行ったが、他の割引よりも割引率を低く設定したためか利用者数は少なかった。
 - 展示構成において他作品との関連が感じにくい部分があった。良い作品なのは確かだが何故この作品がこの配置なのかを説明してもらえると観覧者に親切であると思う。
 - 令和5年度特別展の中では「旅する画家 藤田嗣治・斎藤真一」が、貴重な作品や資料が展示されながらも唯一入場者数が1万人に届かない結果を見て企画の難しさを改めて感じた。
 - 解説文について、丁寧ではあるが量の多さから読んでいて少々疲れる印象を持った。要点を絞ったメリハリのある文章になるよう心がけてほしい。
 - 東京の美術館はほとんどが音声ガイドの設定をしている。文字情報だけでなく、音声を併用することで観覧者が疲れにくくなるのではないかと。特に子どもは文字よりも音声の方が受け入れやすい。また、クルーズ船での観覧者対応にも使用できる。音声を用意する場合もチラシに使用した作品や、《秋田の行事》など主要なものに絞って用意することで学芸員の負担軽減に繋がるのではないかと。
 - 音声ガイドについては秋田県が作成したスマートホン用観光音声ガイドの1つに《秋田の行事》の音声解説がある。ただし、現状秋田県立美術館の展示室内は原則として撮影禁止のため、観覧者がスマートホンを構える事に対する監視スタッフの対応方法を検討する必要がある。

(イ) 企画展について

- 前回の企画展である「空を見つめる」はテーマとして面白いと感じた。今年度の「街」に着目した企画展にも期待を寄せている。
- パリ時代の藤田嗣治を感じられるような企画もあると良い。

② 教育普及事業について

- 出前講座は待っているだけでなく協力が期待できる校長先生等から各先生へ紹介していただくなど、トップへのアピールもしていくべきと考える。
- 出前講座については美術教育の入り口として対象を幼保にも広げて良いのではないかと。
- 手話による作品解説は企画としてはありがたいが、日時を限定しないQRコードの読み取りによって作品解説の手話通訳映像などにいつでもアクセスできるような環境がほしい。
- 今回のGWに開催したお喋りなどが可能な「にぎやか鑑賞タイム」は子どもたち向けに継続していただきたい。

③ 広報について

- 旅の出発点となる空港や駅での広報が弱いように感じられる。秋田駅前という立地を最大限に活かし、新聞やテレビの様な既存の媒体の他にも広報活動があればより認知度の増加が見込めるのではないかと。また、美術館の外から見た時に「入ってみようかな」と思えるような仕掛けがあると美術館が主目的でない近くに寄っただけの人も興味を持って入りやすくなるのではないかと。
- 入りやすい雰囲気作りは以前からの課題である。夏に開催予定の深堀隆介展においては外観に工夫を行う計画があるためご覧いただきたい。
- 「乙女デザイン」では県立図書館や文学資料館とのコラボが効果的であった。ミルハスや文化創造館、千秋美術館など文化施設のみならず、周辺の様々な施設との連携・コラボレーションを秋田県立美術館が中核になって行い、大いに話題作りをしていただきたい。
- 特別展などの開催にあたってはランチやスイーツでのコラボメニューを周辺飲食店に協力していただいた実績もあるため、これからの特別展においても広報戦略の一つとして取り入れていきたい。

④ 運営全般について

- 入館者数の中でクルーズ船からの来館者はどの程度いるか。
- 秋田港への寄港回数が令和5年度は23回で3,094人の来館があった。令和6年度は27回を予定しており5月31日までに1,210人の来館があった。
- 昨今アートの世界が広がりを見せている事を強く感じている。これまでの様なジャンルだけでなく、新しいテーマや作品にも対応していくことが県立美術館の役目であると考えます。
- 来館者アンケートについて、紙への記入のみでなくスマートフォンなどを利用したオンラインフォーム入力にも対応することで、より意見を集められ集計の効率も上がるのではないかと。
- 本日は、貴重なご意見を多数いただいた。今後の美術館運営に生かしてまいりたい。
第2回の運営協議会は、年明けに書面での開催となる。その際にも忌憚のない御意見を賜りたい。